

いば全国へうってでよう



第2回全日本オルグ団総会



日刊 動労千葉

82. 2. 7
No. 104 全国版

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）四五二二七二〇七

才二回動労千葉全国オルグ団総会開る

2月5日、動力車会館において、第2回動労千葉・全国オルグ団総会が開かれました。各支部から40名の役員・活動家に参加し、81・3決戦勝利の地平に立つて画期的大成功を勝ちとった昨年12・3「右翼労働戦「統一」粉砕・三里塚二期着工阻止、首都圏労働者集会」（於・東京牛込公会堂）を引きつぎ、「反合・三里塚を基軸に闘う労働運動」の飛躍的拡大をめざし、新たに全国にうって出ることを確認しました。

動労千葉の運動を全国に拡大していこう

関川委員長が
激励のあいさつ

本部を代表して関川委員長は、「10・11三里塚現地集会の成功、12・3労働者集会の成功、そして

てなによりも、動労千葉支援基金が半年間のうちに三千万円を突破した原動力は、みなさんのオルグ活動のあらわれです。今日、闘わない組合・産業報国会化の攻撃がかけられています。三里塚反対同盟に対する政府・公団の攻撃と同じ質をもっています。非常に厳しい状況ですが、それだけに飛躍のチャンスでもあります。3・6大集会に全国から津田沼への結集を訴え、3・28三里塚へ巨万労働者の総決起をかちとっていかなければなりません。動労千葉の運動を全国に拡大していこう」とあいさつし、オルグ団を激励しました。

軍大化・改憲にむけた、国鉄労働運動と
三里塚反対同盟への解体攻撃をうち破れ

〓 吉岡組織部長が基調提起〓

つづいて吉岡組織部長から基調が提起されました。まず、全国オルグ団結成以降かちとってきた成果について、「第一は、反合・三里塚を基軸とした労働運動の全国的潮流の形成をかちとり、第二に、動労千葉支援基金の三千万円突破をかちとってきた」ことを確認し、さらにわれわれをとりまく現情勢について、戦争にむけた軍事大国化・改憲攻撃の激化、社・共・総評指導部の裏切りと総屈服、労働者・農民・すべての人民の苦しみと怒りの増大……という激動の情勢をとらえ、とりわけて次の二点に集中して、敵の攻撃の基本軸がすえられている事を明らかにしました。

すなわち、一つは、「17年間にわたる非妥協的闘いを続ける三里塚反対同盟の暴力的解体なくして、軍事大国化・改憲はできない。政府・公団が『話し合い』路線というベテンとドウ喝でゆさぶ

り・解体の卑劣な攻撃に全体重をかけてきているが、これこそが二期着工攻撃そのものである。この一点で絶対に勝利しぬかねばならない。」

敵の狙いのもう一つは、「いまだ一定の力をもつて存在している国鉄労働運動の解体なくして、軍事大国化・改憲への途はとれない。35体制攻撃の一層のエスカレート、第二臨調Ⅱ行革攻撃がそこに基準をすえてきた。だから八二年一八〇年代中期の階級闘争は、明らかに三里塚と国鉄を焦点とし、ここが決戦場である。」ことを鮮明に提起しました。

この攻撃の前に、社・共・総評指導部が屈服し、とりわけ、動労「本部」革マル反動分子が、『勇気ある提言』と称して、「国鉄を守るために、国鉄労働者はもっと一所懸命に働こう」などという決定的な裏切りⅡ転向の指導路線をうち出したという事を決定的に重要視し、糾弾・粉砕しつくさなければならぬ事を提起しました。彼らは、ついに政府・国鉄当局と一緒にあって、「国鉄赤字はおれ達の責任じゃないと言ってもだめで、これから2／3割働か度を高めよう」と公言し、35体制の尖兵として、組合の指導路線として「働く運動」という戦後労働運動史上最大の裏切りを行ってきたのです。吉岡組織部長は、「従って、このような重大情勢であるだけに、動労千葉への期待が集まり、全国津々浦々での新たな闘いが起ころうとしている。動労千葉主催の3・6集会への賛同者は一月末現在で60名を越えたように、この集会の成功を通して日本労働運動の戦闘的再生と動労大改革をかちとる勝利のカギがある。今日を出発点にがんばっていこう」と提起しました。

いざ、動労大改革へ！

最後に、片岡教宣部長が、「昨年の4月25日のオルグ団結成以降、北海道から沖縄まで全国二百カ所以上におよぶ大・小集会、交流会、オルグ活動を展開してきたが、今こそこの動労大改革運動の真価を発揮すべき決定的時点である。いざ、全国にうって出よう！」とのアッピールを全員で確認し、全国各地から殺到しているオルグ要請を全員が分担して引うけ、総会を終了しました。